

「ハナ、どこ行った？」

ルカによる福音書 5 章 1～7 節

女子聖学院中学校・高等学校チャプレン 高橋恵一郎

今、私たちは救い主キリストの到来に思いを馳せる季節を過ごしています。
アドヴェント、待降節といえます。

1 猫好きの職員室

さて、皆さんに質問です。猫は好きですか？

職員室には猫好きが大勢います。昨日、意識して職員室のなかを観察して回りました。猫カップ、猫の写真のティッシュ箱、猫のぬいぐるみ、猫のカレンダー、そうしたものが随所に見られます。ぬいぐるみ、置物、キーホルダー、マグネット、缶バッチ、コップ、ハンドタオル…猫に囲まれて過ごしている教師・職員もおります。まるで猫屋敷です。

2 我が家の猫

猫は可愛いですね～。現在我が家には3匹の猫がいます。正確には2匹です。事情はあとでお話します。

まずこの黒猫がリクです。そしてもう一匹の黒猫がウミです。この2匹はコロナ禍の最中に我が家にやってきました。初めはインコを飼いたいと私のお嫁さんと子供達が思い始めていましたが、ひょんなことからインコが猫に変わりました。栃木にお住まいの猫好きな方が雄の黒猫四匹が段ボールに入れられ捨てられていたのを見つけ、連絡を取り、さまざまな厳しい条件や審査を経て、そのうちの2匹が我が家にやってくることになりました。子供達の意見によって、ウミとリクと命名されました。

兄弟でも性格は随分違ってウミはなんだか何をやってもいい加減です。飛び乗ろうと飛んでも向こうに辿り着かずと落下したり、足の爪が絨毯やらカーテンに引っかかって動けなくなって助けを求めてこちらを見ていることなどがしばしば。リクはきちっとしており、特に何の心配もありませんが、ある時、私のお嫁さんが尻尾を踏んでしまいました。リクが振り向いたとき、たまたま私と目があって、なんだか私が踏んだことになってしまいました。猫はメンタームなどの刺激臭が大嫌いですが、先日はやはり私のお嫁さんが治療の関係でメンタームを手につけていてリクの横を通りすぎました。私は何気なくリクの正面に座っていました。妻が過ぎ去った後、偶然にもまたリクと目があってしまいました。リクは私が強烈な匂いを発していると勘違いして、凄まじい顔をして「また、お前だニャ」という感じで私を見ていました。そうした偶然が繰り返され、リクは私をちょっと警戒しています。二匹の外見はほとんど同じです(写真1)しかし、私たち家族はどちらがウミなのかリクなのかすぐにわかります。

もう一匹は野良猫です。気がついたら、母猫が子供を産み、我が家の縁の下に住み着いていました。やがて、そのうちの一匹が、家の中に上がり込み、気がついたら飼うことになっていました。子供達の意見によりハナと命名されました(写真2)。小柄な三毛猫のメスです。種類も性別も違うこともあり、リクやウミとは体型だけでなく、性格も異なります。何よりも甘え上手です。近くにやってきて、足元でゴロっと身をもたげてきたり、移動するとぴよんぴよんと一緒についてきたり。これは可愛くて仕方ありません。私はリクとウミだけで十分だと思い、もう一匹飼うことに反対していたのですが、その可愛らしさに心が溶けてしまいました。

そんなハナですが、秋口になって外に出てから戻ってこなくなってしまうました。いつもは夜になるとベランダから家に戻ってくるのですが、その日以来、顔を見なくなってしまうました。ハナの母親の「ニャー」もしばらく見ないと思って心配していたら、よその家に飼われているのを知ったので、同じように誰かが大切にしてくれているのだと思いたいののですが、やはり心配です。家族皆、ハナのことを思い起こすたびに、気持ちが沈んで、ものすごく悲しんでいます。思い出しては泣いています。ハニャ〜・・・

3 羊を探す羊飼い

本日お読みしたところにはいなくなった羊を探す羊飼いのお話がかかれていました。一人の羊飼いが100匹の羊を飼っていたと言います。私たちから見るとみんな同じに見えますが、羊飼いは全てを見分けます。

また、私たちににとっては声も同じです。どれもこれもメ〜♪ メ〜♪しかし、その鳴き声で、これはメリーちゃんだな、これはメー子だな、メーボウだなと区別できるそうです。

私たちは羊というと、真っ白で可愛い動物をイメージしますが、実際はちよつと違うようです。まず汚いと言います。・・・身体中に伸びた毛に、泥やら草やら糞がたくさん付着しています。性格は頑固です。・・・融通が利くタイプではありません。視野が狭と言います。・・・目の前の物しか見えず、前に草があっても教えてあげなければ気がつきません。迷うと判断ができないそうです。・・・右と左に草があると、固まってしまう。他の羊と一緒に動く習性があるため、前の羊が何かを避けるために飛び越えると、それからの後ろの羊は意味もなく飛ぶと言います。

しかし、羊飼いにとって羊は家族です。そんな羊だからということかもしれません。どの一匹も失われてはならない、いなくなつてはならないのです。そこで羊飼いは他の99匹を野に置いたままにしておいても、いなくなった羊を探しに行きます。99匹はどうなつてもよいということではありません。いなくなった一匹に対する羊飼いの思いを汲み取ることが大切です。

寒い荒野で飢えているのではないか、乾いているのではないか、谷間に落ちて動けなくなつていないか、野獣に襲われて殺されてしまつてはいないか・・・羊飼いは気が気ではありません。私たち

が気づかなければならないのは、羊飼いや、羊と同じか、それ以上の危険に身を晒している、ということです。道なき道を進み、崖をよじ登り、谷間を下り、藪をかき分け、ときには狼の遠吠えを聞きながら、全身、傷だらけになって羊を探す、ということです。

それゆえ見つけた時の喜びは大きいのです。村に戻ってきて、羊の発見を近所の人たちにお話し、喜ぶのです。祝うのです。

我が家もそうやってハナを見つけられればいいのですが・・

4

初めにお話をしたように、今、私たちはアドヴェントの季節を過ごしています。アドヴェントとはラテン語から来た言葉で、到来を意味します。救い主が私たち人間を罪と滅びから救い、大きな恵みと命に招くために私たちのもとにいらしてくださった、そしてやがて再びいらしてくださる、そのことに思いを寄せる季節です。

自分が正しいと信じ、勝手に振る舞い、その結果、傷だらけになり、弱っている羊はどこか私たちの姿に似ています。失敗ばかり、悔やむことが続き、がっかりしたり、涙を流したり、後悔したり・・・しかし、そんな私たちのもとにいらしてくださり、もう大丈夫だよ、と語りかけてくださるお方がおられる、と聖書は私たちに語っているのではないのでしょうか。

皆のもとに連れ帰る時、羊飼いは羊を担ぎます。羊飼いや、羊を担ぎ、全身傷だらけなのに、弱っている羊を大切に運んでいる姿です。このアドヴェント、私たちのもとにいらしてくださる救い主がおられることに心を向けましょう





2023年12月14日 女子聖学院中学校・高等学校礼拝